

たんぼぼ薬局から寄付受け設置

調剤熟知の薬剤師育成 岐阜薬科大、1日から講座

岐阜市の岐阜薬科大は4月1日から、東海地方を中心に調剤薬局150店を展開する「たんぼぼ薬局」



（岐阜市若宮町）や地域の薬剤師向けに講座を開き、高度な知識を身に付けた専門性の高い人材を育てる。

大学と薬局の連携を発表したたんぼぼ薬局の松野社長（右から2人目）や原学長（右から3人目）ら＝岐阜市大学西の岐阜薬科大で

同大はたんぼぼ薬局から少なくとも3年間で各年1千万円の寄付を受け、「社会薬局薬学寄付講座」を設置。薬剤師の知識向上や専門資格の取得、論文執筆をサポートする。また、年間300万件以上を受け付けているたんぼぼ薬局の処方箋データを活用した研究も進める。5月にはたんぼぼ薬局の松野英子社長を特任教授に、後藤佳史執行役員を特任准教授に任命し、学生向けの講義も開く。

27日に同大本部キャンパスで会見が開かれ、原英彰学長は「調剤を熟知している人材を育てたい」、松野社長も「弊社が持っているデータを世の中の役に立たせたい」と話した。

（森健人）